第７回 小川町総合振興計画審議会及び
第５回 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の合同会議
議事要旨

◆日　時：平成 27 年 12 月 18 日（木）　　10：00～12:00

◆場　所：リリックおがわ　２階　会議室

◆次　第　　進行　政策推進課　矢島富男 主幹

１．開会　　小久保文雄 会長

２．あいさつ　　小久保文雄 会長

３．議事　　座長　小久保文雄 会長

１）まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について　政策推進課　山﨑浩司 課長

２）総合振興計画に係る答申（案）について　政策推進課　山﨑浩司 課長

３）国土利用計画（案）について　政策推進課　山﨑浩司 課長

４）その他

４．その他

次回の日程について　政策推進課　石川俊一 主任

５．閉会

【議事内容】

◆１）まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

説明のみ

◆２）総合振興計画に係る答申（案）について

小久会長	総合振興計画について、町長に答申を行いたいと思うがよいか。
一同	異議なし。

◆３）国土利用計画（案）について

大塚委員	P11　(6)「ア　公用・公共的施設用地」で「鉄道用地については、東武東上線の複線化を促進します。」と謳われているが、「東武東上線の複線化並びに JR 八高線の電化」と見直すべきではないかと思うが、いかがか。JR 八高線の電化は、沿線地域において、なさねばならないことだと思う。 駅改良をして電化することによって、高崎、八王子間が 1 時間 30 分程で走ることも可能になる。また、JR 線の川越駅から毛呂山や越生などに回ることができ、秩父鉄道との相互乗入を目指すことも可能になる。
事務局	国土利用計画は土地の利用を主とする計画である。八高線の電化において、期成同盟会を持っている。八高線と高崎、八王子間を結ぶ電化の促進においては沿線の自治体と毎年期成同盟会を通じ、JR に要望は出している。JR からの回答としてはなかなか難しいとのことであるが、今後も要望は出し続けたいと思う。東武東上線の複線化においても期成同盟会があり、毎年 1 回要望書を提出している。 八高線の電化においてどの程度用地的なものが変化するのかわからない部分ではあるが、意見をいただいたので次回の国土利用の会議で検討したいと思う。 ちなみに、前期基本計画の P37「第 5 節道路・交通」の「現状と課題」に、「JR 八高線は輸送力の増強のための電化や増発をそれぞれ要請していく必要があり」と記載しており、基本方針では「東武東上線の複線化や増発、新駅の設置、JR 八高線の充実を要請します。」と記載している。国土利用計画では土地利用の表記ということなので、その辺りの件も内部で考えたいと思っている。
高橋議員	第 5 次総合振興計画基本構想の P16 にある土地利用構想図の中の観光・交流ゾーンについて、国土利用計画 P20 の「旧鎌倉街道跡などの歴史をテーマとした史跡の活用を図ります」という内容を、第 5 次総合振興計画基本構想の土地利用構想図の中にゾーンを伸ばすことで反

	映することは可能か。
事務局	土地利用構想図のゾーンに関しては、四津山を点線で囲っているが、点線の中だけで何かをするというわけではなく、そこを含めた周辺地域を土地利用構想の観光・交流ゾーンであると考えていることを以前、回答した。旧鎌倉街道に点線がないから何も行わないという事ではないとご理解いただきたい。
大塚委員	先ほどの、東武東上線の複線化と JR 八高線の電化について、5、6 番線が空いており JR 八高線が 5、6 番線に移れるのか、そのことが北口の整備とどのような関係になっているのかを含め、公用・公共施設の用地の再検討をしていただきたい。 小川町が大きく発展するために、大きな駅になれば、急行運転など空いている 5、6 番線を活用することも出来るし、フィードバックも図れる。そういうふうにもっていくのか、北口の整備に持っていくのか。その辺が小川町の公共・施設用地の考え方に通じていくのではないかと思う。
山岸委員	公共交通活性化協議会の委員もしており、そこでの話によると、若者からは、東武東上線、JR 八高線の本数を増やしてほしいという要望が多い。JR 八高線の駅長によると一日の利用客数は 1,200 人、これからの試算によると 800 人ほどまでに下がるとのこと。そのような事になった場合、JR 八高線の小川町駅は存続の危機があるのではないかと言っていた。電化すればどのくらい増えるのか、多くの人が利用するにはどのような施策があるのかなどは示されていないが、この問題は容易ではないと感じている。 また、交通活性化委員会は自由に傍聴できるので聞いていただくなり、都市政策課に行って資料があれば頂いて調べることも、大事なことだと思う。
事務局	八高線電化促進期成同盟会というものがあり、主眼は電化による輸送力強化である。併せて、八高線沿線の自治体が独自の要求も行っている。 小川町としての要望として、5、6 番線の用地に関して、電化促進の中で追加要請として出来るかどうか都市政策課にも伝えていきたいと思う。あわせて、鉄道用地についても考えていきたいと思っている。 また、土地利用という観点ではないが、交通利用の観点からも東武東上線、JR 八高線の公共交通の維持、利用促進についても議論していただいているところであり、地域公共交通網形成計画や都市計画マスタープランとの整合性を含め検討していきたい。

曽根委員	前期基本計画 P37「第 5 節　道路・交通」の JR 八高線について、「輸送力の増強」とあるが、人間の輸送力のことなのか、物資の輸送力のことなのか。
事務局	JR 八高線については人の利用を増やしたい、という意味で記載している。
小久会長	ほかに意見がなければ、異議なしという事で次に進んで良いか。
一同	異議なし

◆その他

小久会長	今回の議事録については公開ということで良いか。
一同	異議なし
事務局	次回の会議の日程は、国土利用計画の審議会のみの開催となっている。 1 月 7 日(木)14:00　からリリック 2 階会議室で開催。 内容は本日の審議を踏まえ、庁内で各課と国土利用計画について精査をし、次回最終案ということで示そうと思っている。 総合戦略については10月末に国へ提出できたので推進会議においては一区切りがついたということになる。
副町長	推進会議の閉会において、本日はまち・ひと・しごと戦略、総合振興計画について最終案について承認していただき感謝している。審議会においては 4 月から計 7 回、推進会議においては 5 回お忙しい中、貴重な意見等いただき、この場をお借りして御礼申し上げる。町としては頂いた計画案に基づき今後、着実な施策の推進を図っていく。今後とも町制の推進に理解と協力、支援をお願いしたい。

以上

第７回 小川町第５次総合振興計画審議会、
第５回小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 合同会議　出欠簿

№.	氏　名	役　　職　　等	出欠
1	小久保　文　雄	小川町商工会長	○
2	佐　藤　守　朗	埼玉中央農業協同組合理事	○
3	山　岸　幸　男	小川町区長会会長	○
4	江　原　隆　二	比企西部地区労働組合協議会長	○
5	村　上　紀　子	小川町児童・民生委員協議会長	○
6	岸　田　直　幸	小川町社会福祉協議会事務局次長	×
7	柳　瀬　安　代	小川保育園保護者会長	○
8	鈴　木　健　史	埼玉県川越比企地域振興センター東松山事務所長	○
9	斎　藤　　透	埼玉県寄居林業事務所長	○
１０	角　田　敏　夫	小川警察署長	×
１１	山　口　明　夫	小川消防署長	×
１２	瀬　川　　豊	医師	×
１３	松　本　正　生	埼玉大学社会調査研究センター長（経済学部　教授）	×
１４	吉　田　　稔	文化財保護委員長	○
１５	服　部　昌　史	NPO法人 たすけあいほっとライフ小川代表	×
１６	安　藤　和　広	NPO法人 霜里学校代表	○
１７	大　塚　頼　司	町民代表	○
１８	柿　間　栄　二	町民代表	○
１９	曽　根　美栄子	町民代表	○
２０	髙　橋　功　人	町民代表	○
２１	進　藤　久　明	埼玉縣信用金庫小川支店長	○
２２	亀　田　奈　美	埼玉りそな銀行小川支店副支店長	○
２３	村　田　静　司	武蔵野銀行小川支店長	○
２４	浦　部　充　弘	東和銀行小川支店長	○
２５	杉　山　隆　二	埼玉新聞特別編集委員	○
	福　田　弘　昌	副町長	○
	山　﨑　浩　司	政策推進課長	○
	矢　島　富　男	政策推進課主幹	○
	粟 生 田 寿 彦	政策推進課主席主査	○
	石　川　俊　一	政策推進課主任	○